

はじめに

横浜市は今、大きなターニングポイントにあります。2019年には戦後初めて人口が減少に転じることが見込まれ、これまで経験したことのない社会状況を迎えます。一方で、第7回アフリカ開発会議、ラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピックなど、世界の注目が集まるビッグイベントの市内開催が予定されており、鉄道や港湾などの都市インフラの整備も、着実に進んでいます。

この度策定した「横浜市中期4か年計画2018～2021」には、計画期間内に見込まれるこれらの転機を、都市の持続的な成長に結びつけ、市民の皆様が将来にわたり、安全と安心、夢と希望を感じられる横浜を実現するという、強い決意を込めています。

子ども・子育て、教育、医療・福祉、企業誘致や観光・MICEの推進など、これまで築き上げてきた実績を土台に、あらゆる取組を進化させ、直面する課題を確実に乗り越えていきます。その解決策と成長モデルを内外に発信し、国に選定された「SDGs未来都市」としての役割を、しっかり果たしてまいります。

本計画の策定にあたっては、市民の皆様や関係団体の方々などから、貴重な御意見や御提案をいただきました。改めて心より感謝申し上げます。本計画の実現に向け、引き続き御支援・御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



平成30年10月

横浜市長 林 文子



笑う。食べる。学ぶ。
働く。遊ぶ。深呼吸する。
生きていくうえで関わるすべてのことが、
手の届く範囲の中にある。
港と丘、文化と自然、歴史あるものと新しきもの。
時には葛藤しながらも、
様々なものをやさしく包み込み、
人が、人と、人らしく、すごせる街。
自然に、自分らしくいられる街。
そんな街で、あなたとわたしが、
出会い、認めあい、高めあう。

それは、ここに暮らす人たちが
自ら思い描いた、未来のヨコハマ。
長い歩みの中で、異なるものを受け入れ、
新たなものを生み出しつづけたヨコハマの、
もう始まっている未来。

いまと未来をむすぶのは、
開港を経てヨコハマが育んできた真の多様性と、
住みやすい環境を自分たちで創り出す市民のチカラ。
ここにしかない自由で開放的な風が吹き抜ける。
そんなヨコハマを、みんなで創りあげよう。